

キョーッ!

空襲警報!!
空襲警報!!

ただ今
敵軍の戦闘機が
千葉市内に
接近中!

焼け野原から
立ち上がる女性たち

作画 スガ

ドドドド
ドドドド!

私は学校には
行かなくて
は……!!

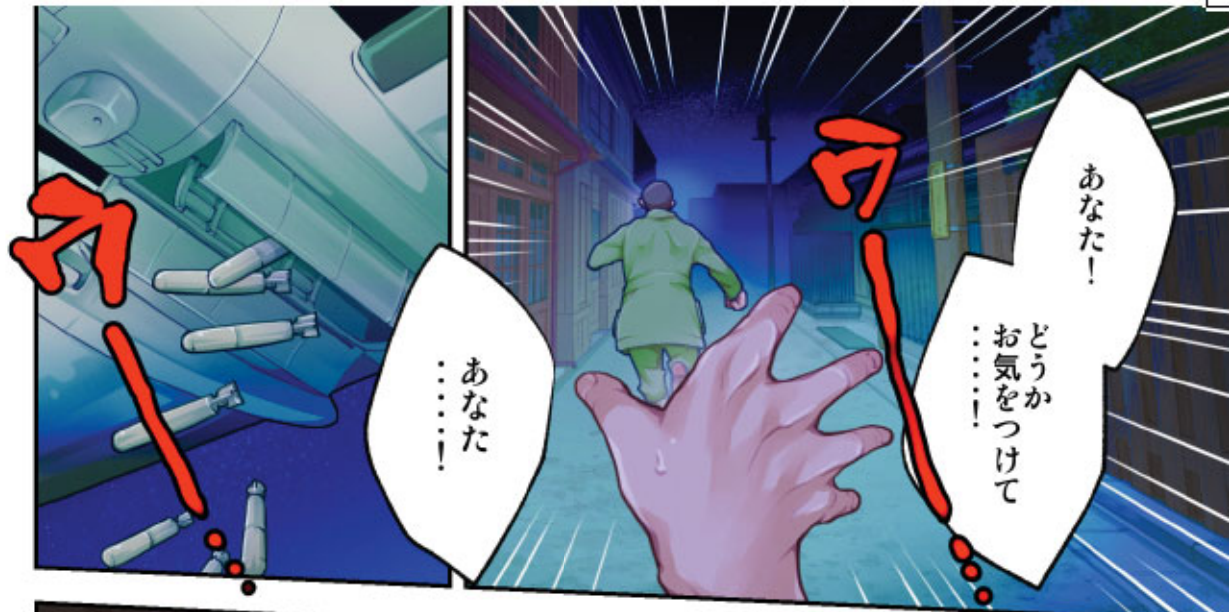
多美!

すぐに
戻るからな!

父さん!

……あなた
……!!

お前たちは
早く
防空壕へ!



私たちの
ふるさと
千葉市は

米軍の爆撃により
焦土と化しました

ヒューン...

休みをもらって
急いで戻って
みれば……

父さんの
遺骨……

ヤラ……

家も
なくなっちゃって
……

これから俺たち
どうすれば……

身元がわかった
だけでも運が
よかつた……

父さん
……!!

ガシ



洋に敵
………!!

真……

武……



お父さんの分まで
強く生き抜くの!

焼け野原に
なってしまった
このまちで………!!



なにもかも
なくなつて
しまつたけれど

くよくよ
してちゃ
いけないよ
………!!

1945(昭和20)年 8月15日

終戦

空襲による
市内の死者
890人
重軽傷者
約15000人

被災戸数
約8900戸
被災者
約3万8000人

戦地での戦死者
陸・海軍合わせて
2853人

戦後の
焼け跡のまちには

戦争で夫を失った
女性たちが
数多くいました

！
文子……

しっかり
なさい
文子さん

子どもたちが
おなかをすかせて
泣いてるでしょう

あなた
お名前は
……？

あーん……



夫は失って
しまった
けれど

軍^{ぐん}役^{やく}にとられた
息子^こたちも皆
無^む事に帰^{かえ}ってき
て……

私は運^{うん}が
よ^よか^かつ^つた^たの^のか^かも
し^しれ^れな^ない



ヒュラ……

あ^あり^りが^がと^とう
……

ご^ござ^ざい^いま^ます
……



こ^この^のま^まち^ちに^には
私^わが^がよ^より^りつ^つら^らい
大^お立^だ場^ばの^の婦^ふ人^{にん}
が^がい

彼^か女^{にょ}た^たち^ちに^には
支^さえ^え合^あい
よ^より^りど^どこ^ころ^ろに^に
で^でき^きる^るよ^よう^うな^な
場^ば所^{じょ}が^が
必^ひ要^{よう}な^なん^んだ^だわ



私^わは^は千^ち葉^え市^し
文^{ぶん}化^か婦^ふ人^{にん}会^{かい}を
結^む成^{せい}す^する^るこ^こと^とに^に
な^なつ^つた^たの^ので^です

——こうして
1947
(昭和22)年



そ^その^のた^ため^めに^に
私^わが^がで^でき^きる^るこ^こと
は^は

焼け出された
婦人たちの支援や
相談に乗る多忙な
日々

さらに
地域の婦人会を
集めてつくった

千葉県連合婦人会の
初代会長に
就任しました

そんなある日

靴を
磨かせて
ください！

しつこいぞ
坊主！

母ちゃんが風邪で
寝込んでしまって
妹もいて

お金がどうしても
必要なんです！

あの子は
確か――！

無事
よかったです

あれから
どうなったか
気になったのよ



でも本当はこの子にも学校に行ってたくさん勉強してほしいんです

そうしてやれないのが情けなくて……



……そうね



死んだ父ちゃんのために俺が働いて家族を守るんだ!

太郎君
しっかり者ね!

ええ本当にいい子で……



ここへ来る間にもそんな子どもたちがたくさん働いているのを見たわ……



きつとあなたの力になれると思うから……!

婦人会……?



……ねえ文子さん!

体がよくなったら婦人会の集まりに来てみない?

公民館

戦争が
終わって
3年……

いまだに
母子家庭への
救済は十分
じゃない

そんな
すべての世帯を
救うためには
経済的支援が
不可欠！

そこで私は
新たに
未亡人会を
設立し

ゆくゆくは
生活の安定と
子どもたちに十分な
教育を受けさせるための
貸付金制度を
つくりたいのです……！

貸付金!?

ゴッ

そんな制度が
あったらどんなに
助かるか……！

でも……
多美さん……！



なんで
しょう？

すべての
世帯を
とおつし
ました
が……

そもそも戦後の混乱で
どこにどれだけの
母子家庭があるかも
把握しきれいていません

未亡人会の結成を
どうやって彼女たちに
知らせるんですか
……？



サッ、

県内
くまなく!?

私たちは戦争で
多くのものを
失いました

住む家……
家族……
生活の基盤

ですが幸いなことに
この健やかな体
だけは残っています



もちろん!

歩いて
探すのです!



一つでも多くの
苦しむ家庭を
救うために！



歩きましょう
みなさん！



何人集まっても
くれるかしら
……

その最初の会合には
20人ほどの参加者が
集まりました

こうして婦人たちの
たゆまぬ努力が実を
結んだ未亡人会

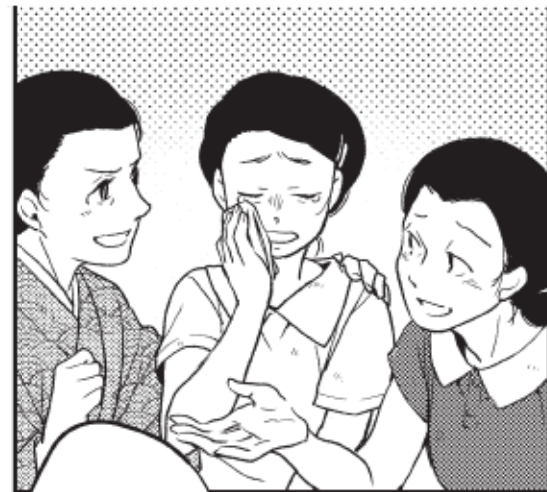


私たちも
負けていられ
ませんね!

きっと
今まで誰にも
相談できずに
不安を抱えて
いたんだわ……

なんだか私
希望が見えてきた
気がします……!

やりましょう
多美さん!



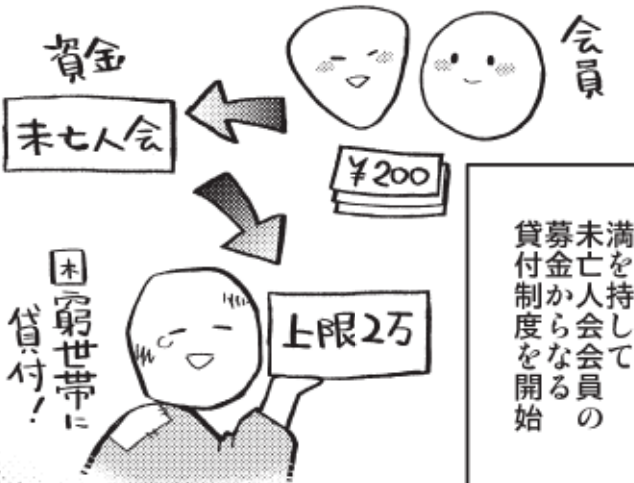
みんな熱心に
母子家庭の今後に
ついて話し合っ
ていて話します……!



やりましょう!

20人から始まった
未亡人会は
瞬間に全国に
広がりました

多くの有志の力で
1953(昭和28)年
ついに資金
200万円を
達成しました



全国未亡人連合の
理事に就任した
私は

満を持して
未亡人会会員の
募金からなる
貸付制度を開始

*2万円は現在の15万円ほど





最近はどう？

婦人会の紹介で
食堂の仕事を
始めたけど……！

ええ……！

おかげさまで
子どもたちも
無事高校を
卒業することが
できました

全部多美さんの
おかげです

ありがとうございます
……！！



私の夫はね

あの七夕の日

空襲にあつて
亡くなつたの



栄町通七夕祭

……少し
お話していい？
文子さん



七夕セー



いつも
学問一筋で

学ぶことの大切さを
人一倍理解していた
人だった……



あの時の
空襲で……？

……夫は
高等女学校の
校長だったの



だから私は
よく思うのよ

家庭を守る
主婦として
母親として

婦人の果たす
役割は非常に
大きい……

そして同時に
婦人たちはもつと
勉強しなくては
いけない



だって
私たちには
ともに考え
行動し

未来を変えていく
力があるのだから
……！！



多美さん
またそのお顔！

え？

多美さんが
なにかすごいことを
企んでらっしゃる時は
いつもそのお顔だわ！



今はまだ婦人たちが
勉強の場に接する
機会は少ないけど
……



社会の中で
立派に活躍
できる未来を！

婦人たちが
自由に勉強し



私も
見てみたいです
多美さん……！



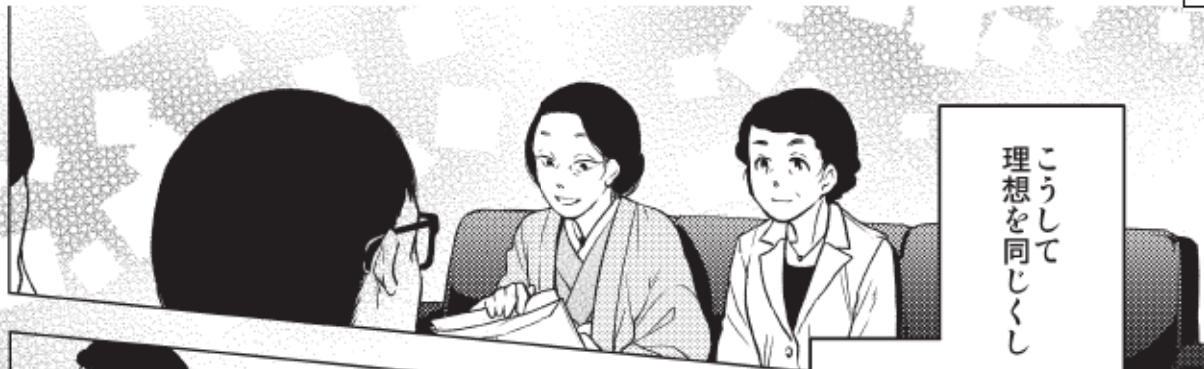
ええ

私も
見てみたいわ
文子さん……！

ねえ
文子さん

文子さんは
全部私のおかげと
言ったけど

私は本当に
運がよかった
だけなのよ

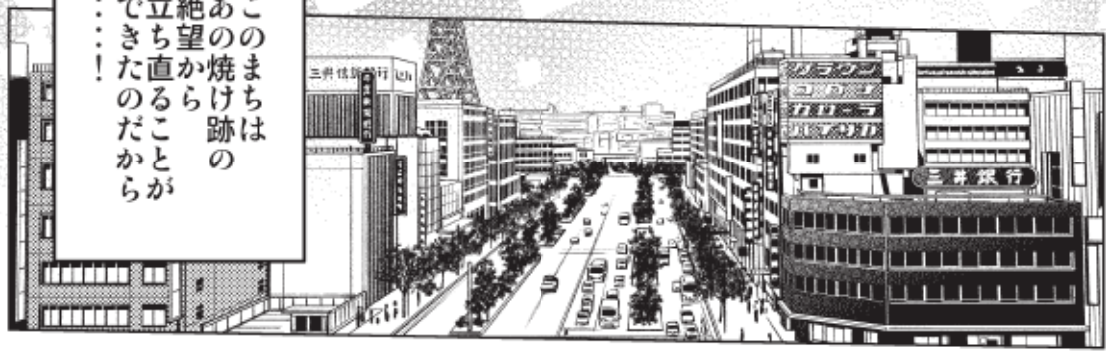


こうして
理想を同じくし

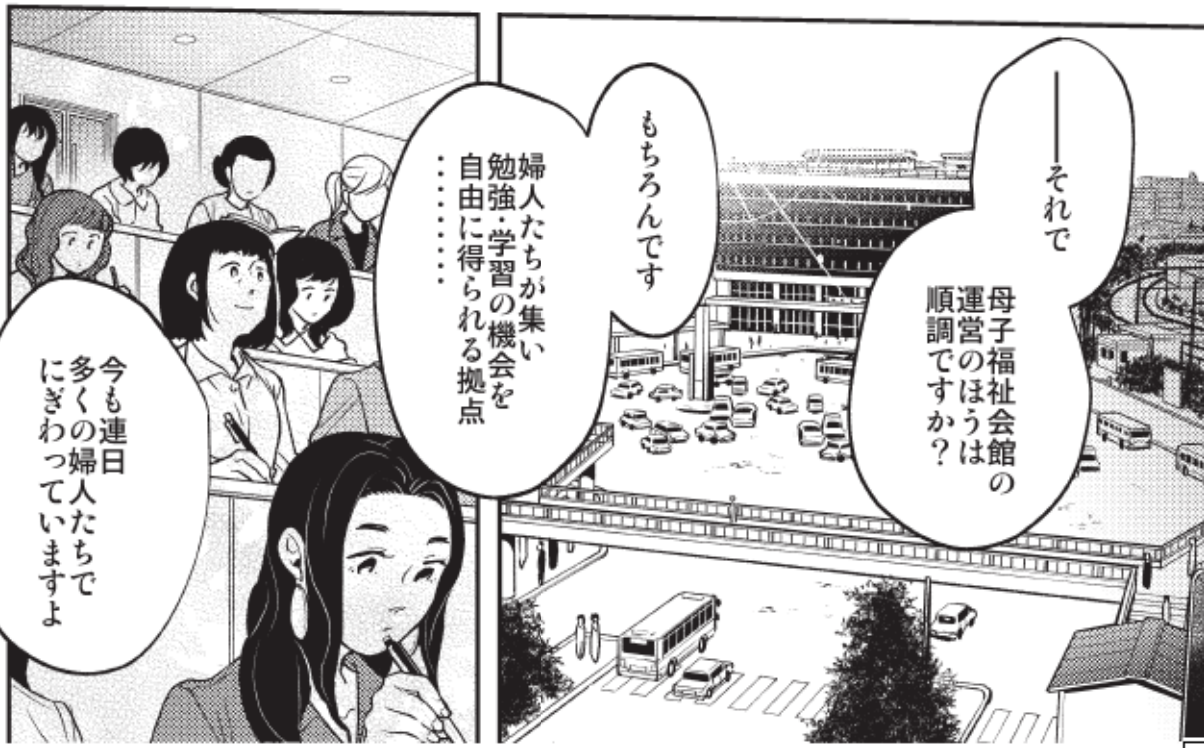


一緒に
頑張ってく
れられる
仲間
に恵ま
れた

人と人が
支え合い
助け合う
ことで



このまちは
あの焼け跡
の絶望から
立ち直るこ
とができ
たのだか
ら……！



それで

母子福祉会館の
運営のほうは
順調ですか？

もちろんです

婦人たちが集い
勉強・学習の機会を
自由に得られる拠点
……

今も連日
多くの婦人た
ちでにぎわ
っていますよ



ヨーロッパ各地を
巡っての視察
とても有意義
でしたよ!

明治生まれのは
足腰をなめては
いけません

千葉駅 中央改札 central gate

ニッコリ



多美さんこそ

まさか
そのお年で
ヨーロッパ
福祉使節団に
加わられる
なんて!



この経験を
また多くの人の
福祉に役立てて



……

どうなさいました
多美さん?



あれは……





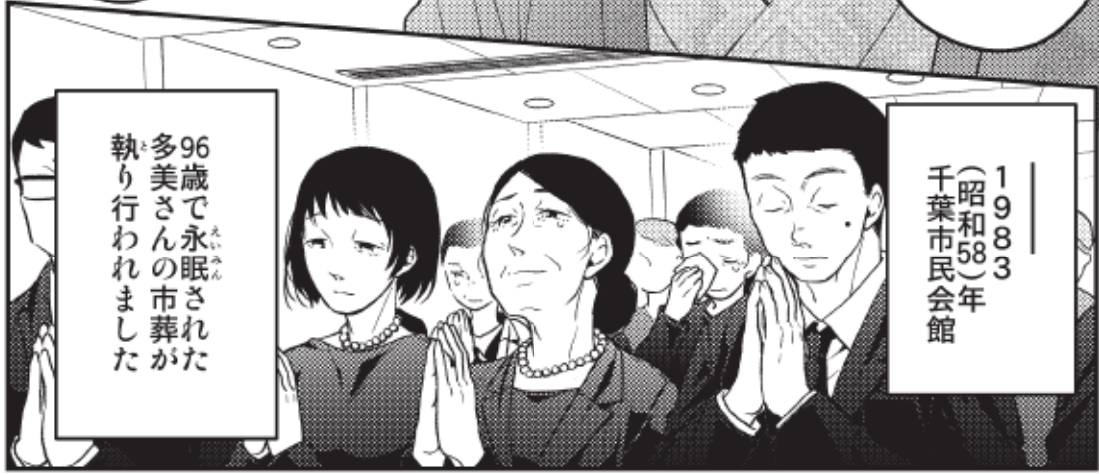
……いえ

これからも
進み続けて
行くのですね

私たちが

このまちな

まだまだ
これから
……



1983
(昭和58)年
千葉市民会館

96歳で永眠された
多美さんの市葬が
執り行われました

制作協力…千葉県母子寡婦福祉連合会



生前にわたる
長年の功績が認められ
勲四等瑞宝章を受賞

女性として初めて
千葉市名誉市民の
称号を贈られた
彼女が残した志は

今このまちな
福祉の土台として
いたしかに生き続けて
いるのです

焼け野原から立ち上がる女性たち



●爆撃に向かうB29の編隊

7月7日の空襲では129機のB29が焼夷弾（約890トン）を無差別に投下し、市街地は火の海となり、多くの犠牲者が出た。（写真提供：千葉市空襲を記録する会）



●千葉駅の移転工事

この移転は復興計画の主要事業だった。新しい千葉駅は1963年4月28日に開業。



●活気を取り戻す商店街

栄町通りの七夕まつり。1964年ごろまで行われていた。

太平洋戦争中、千葉市は空襲により大きな被害を受けます。中でも1945（昭和20）年の6月10日と7月7日の空襲は、B29爆撃機による激しいもので、特に7月の空襲は「七夕空襲」と呼ばれ、その凄惨さは今も語り継がれています。

たゞ重なる空襲により、市街地の約7割が焼け野原となり、空襲による死者は890人、重軽傷者約1500人、被災戸数約8900戸。沼田多美をはじめ焼け出され家を失った千葉市内の被災者は約38000人。市中が悲しみに沈みました。

戦後、政府によって「戦災地復興計画基本方針」が打ち出されると、千葉市も新しい未来へ向けて、復興計画を立案します。国鉄（現・JR東日本）千葉駅や京成千葉駅の移転を行うなど、現在のまちの骨格が出来上がりました。

●千葉銀座通りのヤミ市

1946年の秋、物資不足の中、多くの人が食料や日用品などを求めて集まった。(写真提供：千葉市空襲を記録する会)



●千葉県母子福祉会館

1960年竣工。会館建設は母子の活動の場、学びの場が必要だと考えていた沼田多美の悲願であった。

(写真提供：(財)千葉県母子寡婦福祉連合会)

●千葉市名誉市民 沼田多美
社会奉仕活動の先駆者として、婦人の地位向上にその半生を捧げた。



戦争で母子家庭となった人たちの救済を目的に、沼田多美を中心とした有志が立ち上がり、1949（昭和24）年に千葉県未亡人連合会を発足させました。困窮する母子家庭への貸付金制度の実現や母子福祉法の法制化に向けた活動など、「自らの幸福は自らの手で」を合言葉に草の根の活動を根気強く継続しました。

1960（昭和35）年に千葉県母子福祉会館の開館、1984（昭和59）年には千葉県母子寡婦福祉連合会への改称を経て活動の幅を広げていきます。

会は現在、子どもの健やかな成長を願い、父子家庭も含む「ひとり親家庭」へと対象を広げ、自治体や地域組織と連携し、就業支援、自立支援に取り組んでいます。